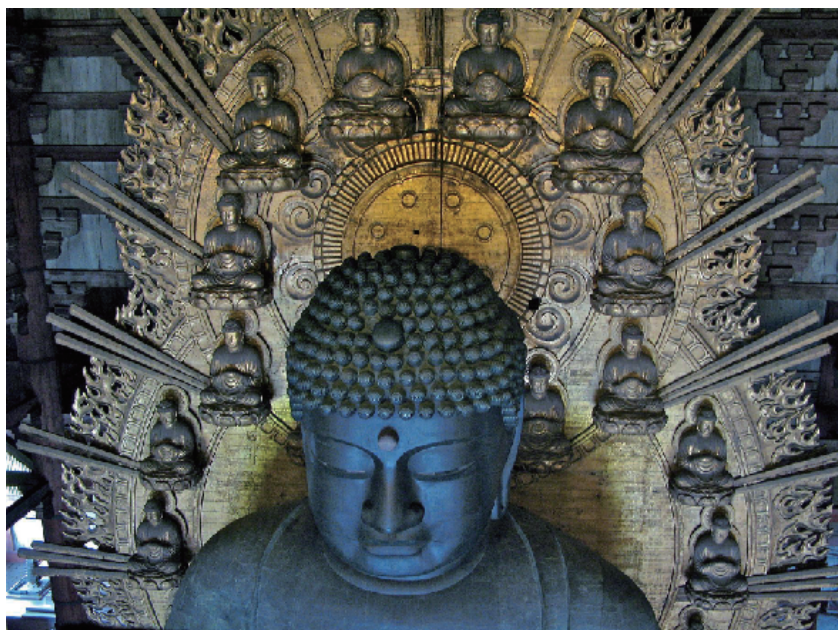


Structure Kansai

No.104 2010.1

JSCA 関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

2010年 迎春号



奈良東大寺大仏



年頭のあいさつ

支部長

近藤 一雄

新年明けましておめでとうございます。

耐震強度偽装という予想もしなかった事件から始まった一連の法改正により構造設計者の役割と責任が法的に明確になりました。安全・安心な良質な建築物、構造物を創造するには、その職責を達成するにふさわしい自覚と発言力が必要です。JSCAの理念を実現するため、新資格の構造設計一級建築士が会員の中核となり、広範な構造技術者を包含するよう積極的に会員増強活動を行うと同時に、今年度からはより一層の研修制度の充実を図っていきます。

昨年度より開始いたしました、耐震診断・補強判定委員会への関心も高く多数の申し込みが寄せられています。また、大阪府域内陸直下型地震設計法研究会についても各方面からの注目度も高く、その成果に対し大きな期待が寄せられています。

JSCAの活動も年々多岐にわたってきています、これら構造設計者の職能向上に寄与する活動に、構造設計者のリーダーであるJSCA建築構造士の積極的な参加を期待いたし、新年のご挨拶と致します。



年頭のあいさつ

副支部長

(株)平田建築構造研究所
西村 清志

新年おめでとうございます。本年も皆様にとって良い年でありますよう祈念いたします。

新年早々でありますので、希望のある意見を述べさせていただこうと思います。建築の構造設計は、建築に対する知識と、一般常識より醸成される「創造と挑戦」であると考えます。精神的にこれを阻害するものは在ってはならないと思います。建築物は社会基盤をなすものでありますから一定の規制は受け入れましょう。近頃の適判はピアチェックなら意義は大きいですが、本道からは脱線している現状です。建物規模別、設計者別に別案があって然るべきだと思います。構造設計は現実に建物が完成される達成感のある仕事、後で訪れる事の出来る物が残っている仕事です。

JSCAはこの仕事を応援する組織です。情報伝達、教育、レビュー、構造士の研鑽制度の充実が重要事項と考えます。社会に構造設計技術者を認知、理解してもらうにはまだ時間も努力も必要です。社会どころか、建築界での理解もまだまだ必要と思われます。



年頭のあいさつ

副支部長

(株)鹿島建設
辻 幸二

明けましておめでとうございます。民主党政権に替わって、建築基準法の改正に向けた関係各界のヒアリングが昨秋から始まりましたが、私たち構造設計者にとって、望ましい方向に向けた改正であることを願っています。今年は寅年。寅年の謂れは、草木が伸び始める状態を表すそうですので、構造設計一級建築士制度が本格的にスタートする年回りとして最良の干支ではないでしょうか。

関西支部の活動に参画するようになって早十数年になりますが、姉歯事件の前後でJSCAの役割・活動は飛躍的に重要になっていると感じています。震災10周年の記念事業を企画した時は、JSCAの活性化が大きな課題でした。今年は、震災15周年の節目の年にも当たり、1月18日には、「阪神・淡路大震災15周年フォーラム」が神戸国際会議場で開催されますが、日本地震工学会、日本建築学会等13学協会の中にJSCAも共催者として名前を連ねています。一方、私たち構造設計者にとって、最も悩ましい課題の上町断層地震等に対する研究会である略称「大震研」の活動も本格的に始まります。その他、若手・中堅・シニア研修会、耐震診断委員会と新規活動も企画されています。年頭に当たり、会員の皆様の積極的なご支援をお願いしたいと思います。

しなやかでなめらかな構造体
「福良港津波防災ステーション」



陶器 浩一
(滋賀県立大学)



橋本 一郎
(S³ Associates)

「鉄骨構造」という言葉が表すように、わが国では鋼構造は線材（柱・はり・筋かい）で構成されるのが一般的であり、建築における鋼構造に関する法律・基準・指針も線材を対象としたものとなっている。しかしながら、自動車・航空機・車両・船などの輸送機械やタンクなどの容器構造ではモノコックな構造体、すなわち鋼材を面で考えるのが普通であり、機能と材料と形態とが総合された合理的な構造をしている。

近年のコンピューターの発達を背景とした解析や施工技術の向上により、建築構造においても鉄を面的に使用する事例も見られるようになってきた。

この建物は、“しなやかで強い”鋼材の面としての特徴を追及した建物である。

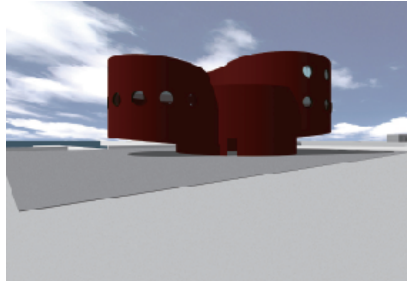
計画は、鳴門観潮船の船着場である淡路島福良港の護岸整備事業の一部として計画された津波防災ステーションで兵庫県発注の仕事である。

「防災のシンボルにふさわしい建築に」との事業者、地元の思いを反映し、土木コンサルタントから建築家・遠藤秀平さんに相談がきた。

防災のシンボルとは何か？ 遠藤さんと考えたことは、「災害からの復元力を示すもの」。

自然の驚異をバネのように跳ね返し、しなやかに力強く人々をまもるものでありたい、ということであった。

機能的には、想定津波高さ約4m以上のところに諸室（津波監視室など）と避難スペースを設けること、すなわち、ピロティ形式とすること、であった。



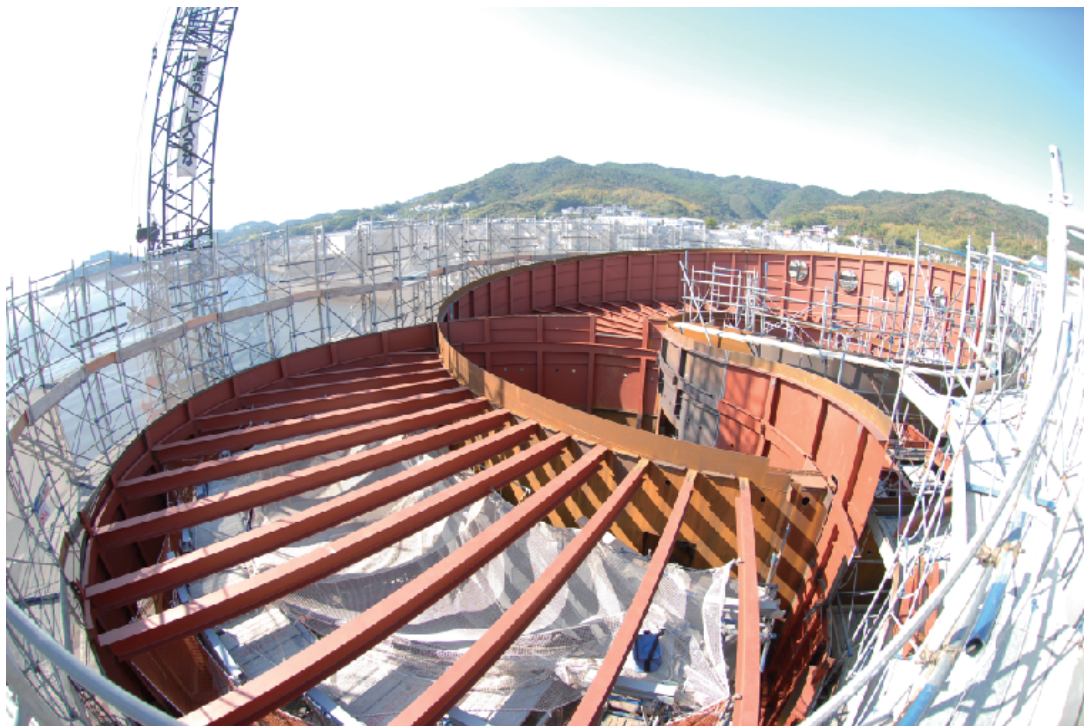
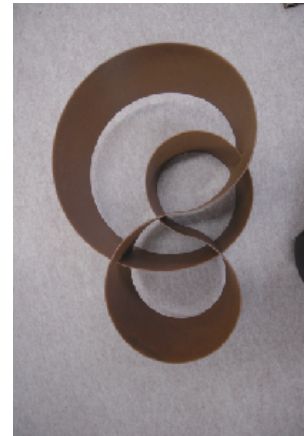
試行錯誤の末、たどり着いた形は、円弧状に曲がった鋼板壁面が立体的に交差しながら巻き上がってゆく形状である。しなやかな鉄板が噛み合いながらグランドラインから建物を浮き上がらせ必要な機能と空間をかたちづかってゆく。



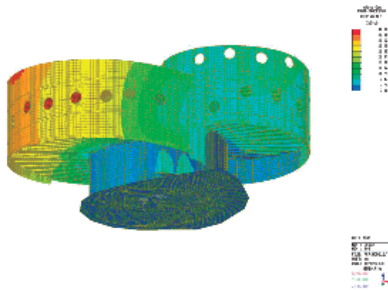
具体的には、平面的に6ヶ所の中心を持つ連続した円弧壁を設定し外力に対し合理性を持たせる、円弧壁を鉛直方向に立体的に交差させながら閉合し必要とするヴォリュームを確保する、ことにより決まっていた。

津波を“しなやかに”跳ね返す構造体である。この建物が地域のみんなに愛されることを願っている。

(陶器 浩一)



継ぎ目の無いなめらかな曲面は美しい。その曲面が単なる装飾ではなく、構造的な機能を兼ね備えたとき、力強さを内在して美しさに磨きがかかる。この建物では、一筆書き模様に絡ませた円弧状の鋼板壁に、建築の表皮と骨格の機能を併せ持たせている。



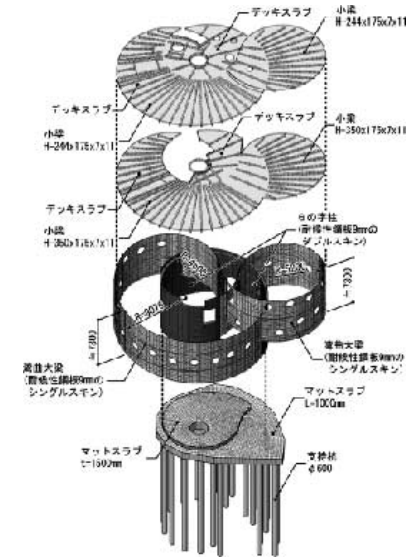
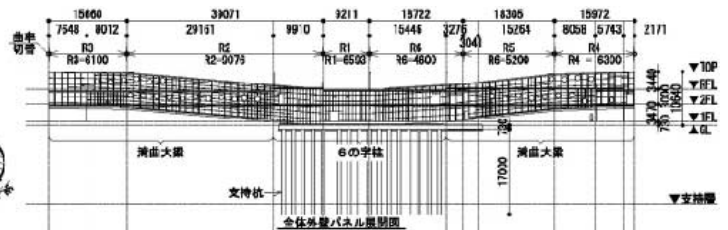
円弧壁は、厚さ9mm×幅約2.4m×長さ約10mの耐候性鋼板およそ60枚をつなぎ合わせた、総高約7m×総長約120mの連続壁である。鋼板同士は現場溶接により一体化し、継ぎ目を丹念に研磨してシームレスな表皮へとつくり上げていった。

この建物は明確な柱・梁を持たないが、強いて言うなら次のように区分できる。一連の円弧壁のうち接地した数字の6の字状の部分は、重力と地震や

津波などの横力に抵抗する柱であり、リブ内蔵のダブルスキン構造としている。その柱から次第に浮き上がり交錯しながら対称にオーバーハングした部分は、湾曲した大梁である。つまり、高さ7mの6の字状の曲面壁がオーバーハング部分を抱え上げたような形態で、重力と横力に抵抗するシステムである。なお、放射状に架け渡したH形鋼梁は小梁であり、湾曲大梁の横座屈補剛の役割も担わせている。

この建物では建築の表皮と骨格との一致を目指した。意匠性のみならず、応力が分散されてリダンダンシーが高く、構造体を目視で観察できるためメンテナンスが容易なこの構造は、高いサスティナビリティを有している。なめらかで力強い構造体を求めて、従来の鋼構造の規矩を超えたデザインに挑んだ建物である。

(橋本 一郎)



JR尼崎駅北NKビルの構造設計

～意匠・構造・設備計画に合致した
ファサードデザイン～



(株)竹中工務店
山下靖彦

■建築概要

建物名称：JR尼崎駅北NKビル
建築主：ジェイアール西日本
不動産開発株式会社
設計：(株)竹中工務店
施工：(株)竹中工務店
建築地：兵庫県尼崎市潮江1丁目
主用途：貸事務所・店舗
建築面積：2,029㎡
延床面積：13,594㎡
階数：地上7階
建物高さ：28.7m
構造種別：SRC造(柱SRC造+梁SRC造+
S造+耐震壁RC造)
架構形式：両方向共耐力壁を有する
ラーメン構造
地業形式：杭基礎
工期：2008年7月～2009年7月

■構造計画

本建物は、JR尼崎駅の直北に建設された、1階に駐車場を集約し、上階を事務所(一部店舗)とした建物である。



写真-1 竣工写真(昼景)



写真-2 竣工写真(夜景)

平面形状は、レントブル比の最大化及び階数を1層減少させることによる短工期化を目指し、敷地形状一杯に計画している。外観の特徴としては、一辺約30mのキュービックを東西に設けて、ファサードを市松状の耐震壁としている点にある(写真-1・2)。構造計画を工夫した主要な点は、①意匠・構造・設備計画に合致した外周市松耐震壁②建物中央部の空間デザインの2点である。

■意匠・構造・設備計画に合致した外周市松耐震壁

事務所空間は、基本グリッドが約7.5×10mである。天井高さを3m確保し、短工期化に対応するため、建物内部の大梁はS造を選択した。

意匠設計者のボリュームイメージは、中央部に憩いの空間を挟んで東西に箱型を配置するものであった。開口を壁面に対して約50%確保して、自然光を積極的に取入れた明るい空間とするために、外周に耐震壁を市松状配置した構造計画とし、ファサード

ドデザインと合致させた耐震計画とした。(写真-3) また、設備計画は、市松状のRC耐震壁に小さな排煙窓を確保することにより、自然排煙を実現し、経済性の高い設備計画とした。

また、鉄骨建方の施工性及び外周耐震壁要素周囲の柱・大梁の接合部耐力を高めるため、柱と外周大梁にはSRC造を採用したハイブリッド構造としている。(図-1・2)

本構造形式のメリットは、建物外周市松状耐震壁にほぼ100%の水平抵抗性を持たせ、建物中央部を長期設計し、事務所空間をよりフレキシブルにできる点にある。



写真-3 ファサード

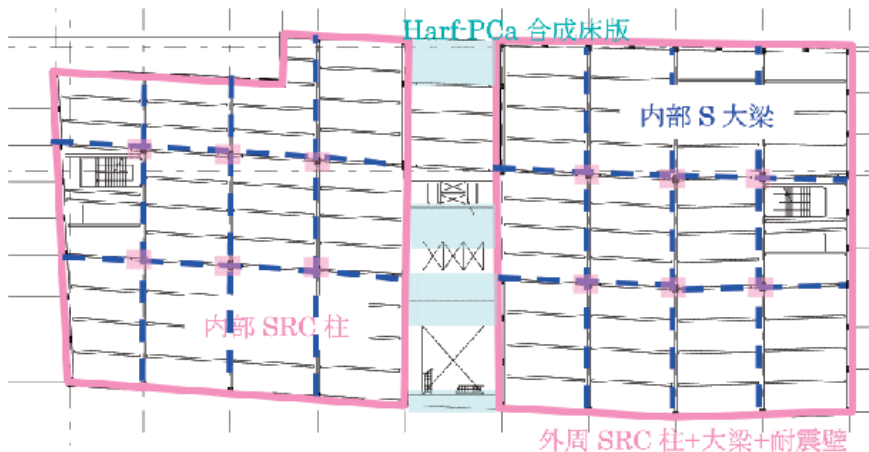


図-1 基準階床伏図

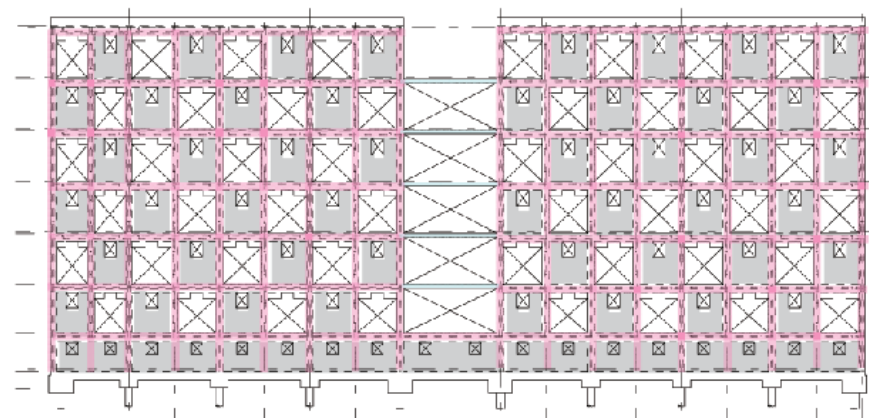


図-2 長辺方向軸組図

■建物中央部の空間デザイン

本建物の中央部には、憩いの空間として、南側にリフレッシュスペース(写真-4)を配置している。また、中央部のEVはシースルーとし、東西のキュービックに挟まれた空間は、透明性の高いものとしている。そのため、構造的には床にハーフプレキャスト合成床版を使用することで、8.2mスパンを梁型の無い空間構成を実現している。

また、リフレッシュスペースには2階のウッドデッキより建物最上階までつながる螺旋状の鉄骨階段を設けている。(写真-5) この階段は、ファサードイメージを踏襲した、



写真-4 リフレッシュスペース

PL-6の手摺が採用され、このPLをササラ材兼用の構造材としている。構造計算はFEM解析(図-3)を用い、

薄肉PLであることから、座屈解析も併せて検討し、安全性を確認している。

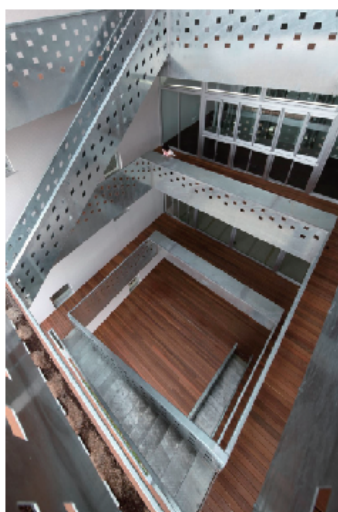


写真-5 鉄骨階段

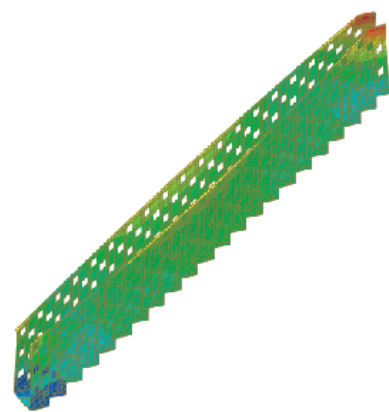


図-3 鉄骨階段FEM解析結果

アーキニアリング・デザイン展
JSCA講演会
(株)北條建築構造研究所



白髪 誠一

建築における工学（エンジニアリング）とデザインを「アーキニアリング・デザイン」と称し、過去から現代、そして未来への「示唆と提案」を意図して企画・開催された「アーキニアリング・デザイン展」が2008年10月に建築会館（東京）で行われました。その後、全国10会場を巡る「AND巡回展」が行われており、2009年9月28日～10月12日の間には京都工芸繊維大学において開催されました。



展示会場には「代々木体育館」や「積層の家」といった構造が形状を特徴付けている数々の建築の構造模型が展示され、建築を学ぶ多くの学生や若い技術者が興味深く見ていました。展示会場の一角には、JSCA関西支部の展示コーナーがあり、これまでのJSCA賞受賞作品や活動内容が紹介されました。



共催のJSCA関西支部が10月3日に「JSCA賞受賞作品に見る空間デザインと構造設計」と題した講演会を主催し、過去のJSCA賞受賞者の方々による受賞作品についての講演が行われました。

講演は、日建設計 徳田氏より第18回作品賞「大阪弁護士会館」、白髪より第18回新人賞「神戸新生バプテスト教会 鉄の教会」、桃季舎 榎田氏より第17回作品

賞「西有田町タウンセンター（現有田町庁舎）」、SERB 榎原氏より第18回業績賞「限界耐力計算を用いた木造建物の耐震設計法」、そして、日建設計 加登氏より第17回新人賞「京都大学医学部百周年記念施設 芝蘭会館」の構造設計についての講演がありました。



会場からは「構造設計者が一同に介した講演会で学生たちも構造設計に対する興味を持ったのではないか。」との意見がありました。

最後に、近藤支部長より建築を学ぶ学生へ向けてJSCA関西支部では学生サロンを設ける予定があり、JSCAの活動へ気軽に、そして、積極的に参加して欲しいと呼びかけがあり講演会は終了しました。

「大阪府域内陸直下型地震に対する建築設計用地震動および設計法に関する研究会」設立総会報告



技術委員長

多賀 謙蔵

前号で標記研究会の前身である「大阪府域内陸型地震動対応委員会」の角委員長より紹介ならびに参加呼びかけがなされた研究会（名前が長いので略して「大震研」と呼んだりしています）の設立総会が、11月2日に中央公会堂会議室にて開催されました。当日時点で研究会への参加法人は45社にのぼっており、委任状2社を含めて44社ならびに協力会員である行政機関の出席のもと、研究会規約・役員の承認、引き続き2009年度の事業計画ならびに予算案が承認されました。研究会組織は図1に示すようなもので、具体的な検討は井上一朗先生を委員長とする専門委員会で行われます。成果目標はひとことで言うと「考慮すべき地震動の大きさと倒壊防止レベルまでを含んだク

ライテリアの設定」で、我々構造設計者がどのような建築主に対しても同じことばで説明ができ、図2に示すような性能設計に適用できることを意図しています。総会での審議を終えて、井上先生から今回の取り組みに対する期待のお言葉をいただいた後、多賀から上町断層地震動に対する現在までの検討内容を概略ご紹介して、いよいよ活動がスタートしました。

この難しい問題に取り組まなければならないとの認識が我々に強く芽生えたのが昨年3月の建築学会近畿支部シンポジウムにおける議論ならびに翌日の新聞報道でしたから、約1年半の準備期間を経てこの日を迎えたわけで、角さんを初めとする関係者は、一時の達成感とこれから始まる難題に対する挑戦意識を改めて高めた一日でした。

なお、研究会会員各社は専門委員会のWGに入って活動できますし、情報収集のために活動を傍聴することもできます。研究会への入会、専門委員会のWG活動への参加はこれからも大歓迎ですので、さらに多くの方々の参加をお待ちしています。（お問い合わせは事務局まで）

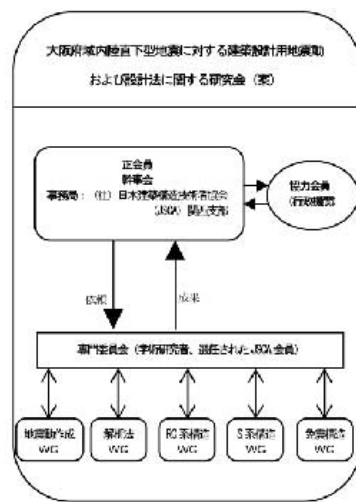


図1 研究会組織のイメージ

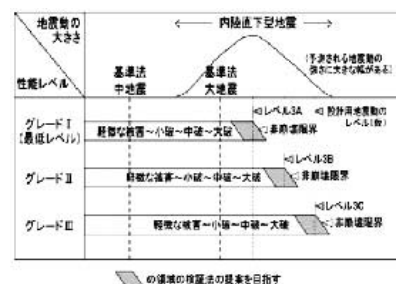


図2 地震動レベルに応じた性能設計のイメージ

**JSCA 奈良会
東大寺大仏殿小屋組見学会報告**



**安井建築設計事務所
山浦 晋弘**

2009年9月11日、東大寺大仏殿の小屋組見学会が開催された。参加人数は30名と盛況で、大仏殿に精通した奈良県文化財保存課課長補佐（建造物担当）の今西良男氏と東大寺本坊技監の保科健彦氏に案内いただき、通常は入ることのできない小屋裏を特別に見学させてもらった。

大仏殿に入る前に、今西氏より大仏殿の建物について説明を受けたあと、明治時代の鋼材による補強や昭和の大修理と呼ばれる屋根工事の解説をいただいた。

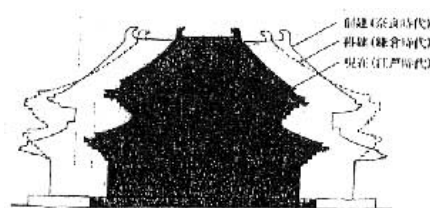


説明を受ける参加者

天平時代に創建された大仏殿は、正面29丈（約88m）×側面17丈（約52m）×高さ15丈6尺（約47m）で、鎌倉時代の再建時も同じ規模で建造された。

その後、江戸時代に再建された現在の大仏殿は、正面が11間あったものが財政事情で7間（約57m）になり、立方体に近いプロポーシオンとなったが、依然、世界最大級の木造建築である。

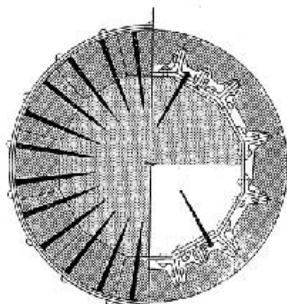
また、外径1.5mにもなる柱材の調達には困難を伴い、2～4本継ぎの芯木の外周に周辺材を打ち付けた集成材方式が採用されている。



大仏殿のプロポーシオン

明治時代の修理事業は、耐震補強ではなく、鉛直荷重に対する補強が目的

であったらしい。屋根荷重に対して、15本の柱を厚さ6mmの帯鉄や鈍角山形鋼を鉋や大釘で拘束して座屈補強されている。また、大仏上部の大梁のたわみが50mmあったため、たわみをもとに戻した上で英国製の鉄骨トラスを架けて補強したほか、当時たわみ対策として支柱が設けられていた4隅の軒先にも補強が施されている。



柱補強詳細

その他、屋根荷重を減らすために瓦葺き脚を長くして瓦の枚数を減らしたが雨漏りの原因となり、昭和に入って葺き脚を戻す代わりに瓦重量の低減を図ったという説明も受けた。

説明の後、大仏殿内の70度の勾配はあろうかと思う階段を上り、小屋裏に入った。



小屋裏に入る参加者

小屋裏は一面に鉄骨トラス補強が施されていた。資料によると、大梁下部のトラスは、プラットトラスとハウトラスを合成した形式のものとして静定トラスとして計算されていたそうだ。



小屋裏トラス補強

1時間ほど小屋裏をくまなく歩き、点検窓よりふだん見ることのない角度から大仏のお顔を拝むこともできて、たいへん貴重な経験をした。

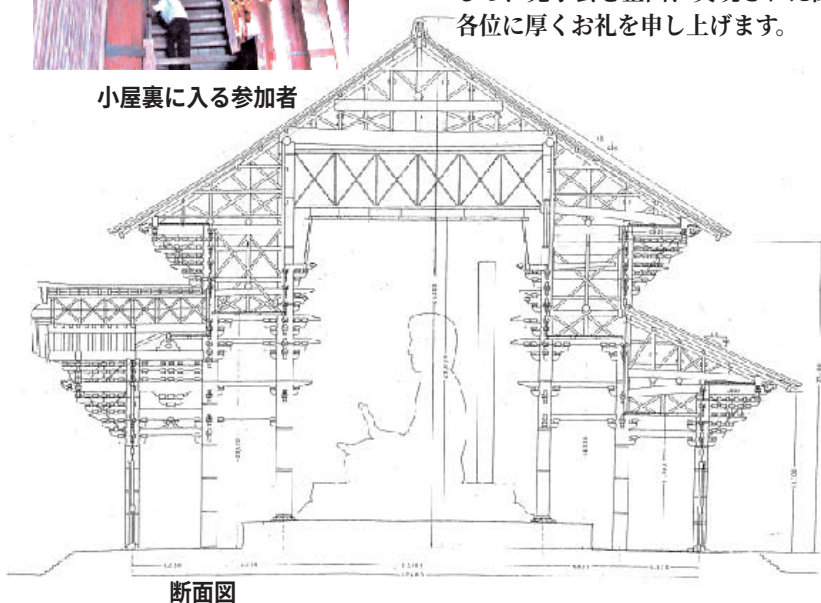
なお、改修について興味のある方は奈良県文化財保存事務所編「国宝東大寺金堂（大仏殿）修理工事報告書」（1980年）を参照されたい。



記念撮影（大仏殿前にて）

謝辞

今回の見学会に際し、案内、解説いただいた今西良男氏、保科健彦氏をはじめ、見学会を企画、実現された関係各位に厚くお礼を申し上げます。



断面図

■第12回 構造設計ゼミナール 「魅せる鉄骨建築」～設計知識と設計事例～



金属系分科会
吉澤 幹夫

1. はじめに

第12回構造設計ゼミナールは、改正建築基準法施行をテーマにした2008年2月の第2回構造設計ゼミナールに続いて、金属系分科会が2回目の企画担当で行われました。今回のゼミナール開催にむけて、金属系分科会では2009年2月から6回に渡り、企画内容について議論を重ねました。その間に開催されたJSCA関西技術委員会での意見も踏まえて、構造設計の妙味を普及するようなテーマを選定しました。

2. 構造設計ゼミナールのテーマ

構造体をそのまま意匠材として見せる事例は、コンクリート系の建物に限らず鉄骨造建築においても増えています。このような鉄骨をそのまま意匠的に見せる建築に関して、今回のゼミナールでは「魅せる鉄骨建築」というテーマとして取り上げて、構造体をそのまま意匠材として魅せる設計技術に関する情報を共有する機会となることを意図しました。

ゼミナールの前半では、身近に使用しづらいと思われがちな「鋳鋼接合部」や「システムトラス」など空間構造の設計アイテムに関して、より身近に感じることができるような「魅せる鉄骨建築」の設計知識として、専門の賛助会員の方々に講師をお願いして講演していただきました。後半では、「魅せる鉄骨建築」として取り組んだJSCA関西支部会員の設計事例を紹介していただきました。当日のプログラムを以下に掲載します。

第12回 JSCA関西・構造設計ゼミナール

■口 時: 2008年9月25日(金) 18:00~20:30
■場 所: 大阪科学技術センター 地下1号会議室

■テーマ: 「魅せる鉄骨建築」～設計知識と設計事例～

- 開会の挨拶 : 金属系分科会・吉澤 幹夫 18:00~18:05
- 「魅せる鉄骨建築」の設計知識 2部(分科会他)
 - (1) 鋳物の接合部 : 日建機材・北野隆司 18:05~18:35
 - (2) システムトラス : 太陽工業・奥原剛彦 18:35~19:00
- 「魅せる鉄骨建築」の設計事例 4部(分科会他)
 - (1) 大阪城のレストハウス : デザイン・構造研究所・大氏正嗣氏 19:05~19:25
 - (2) 白い教会 : 大林組・新居努氏 19:25~19:35
 - (3) ろうきん肥後橋ビル : 日建設計・嘉村浩氏 19:35~19:45
 - (4) 清和台研修所 : 匠 : 竹中工務店・河野秀二郎氏 19:45~19:55
- フリーディスカッション : 20:00~20:30
- 閉会の挨拶 : 多賀技術委員長

3. 「魅せる鉄骨建築」の設計知識

(1) 鋳物接合部

日立機材株式会社の北野隆司様に講師をお願いしました。講演では、鋳物の基本的な知識、建築基準法における鋳鋼品の取り扱い、鋳鋼品を設計・製作する際の留意点と進め方を解説いただいた後に、ドーム建築を主体とした鋳物接合部の適用事例を紹介していただきました。適用事例の中で、構造設計者との協働の概要を解説していただきました。

(2) システムトラス

太陽工業株式会社の奥原剛彦様に講師をお願いしました。講演では、スペースストラクチャーにおけるシステムトラスの特徴、建築基準法におけるシステムトラスの取り扱い、システムトラスを用いた建築の基本計画から実施設計までの進め方を解説いただいた後に、システムトラスの適用事例を紹介していただきました。耐震改修の事例からロッド材や木材と組み合わせたハイブリッド構造まで多様な事例を紹介していただきました。

4. 「魅せる鉄骨建築」の設計事例

設計事例は4名の会員から紹介いただきました。各氏が発表されたスライドの中から選出いただいたものを以下に掲載することで報告に代えさせていただきます。

(1) 大阪城のレストハウス

ーデザイン・構造研究所: 大氏正嗣氏ー



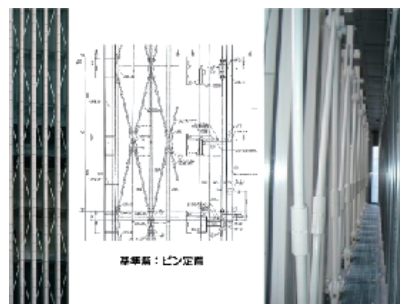
(2) 白い教会

ー大林組: 新居努氏ー



(3) ろうきん肥後橋ビル

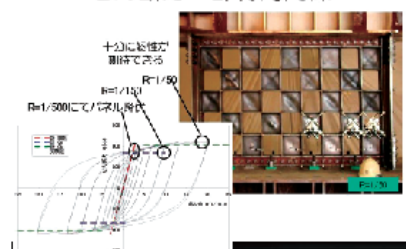
ー日建設計: 嘉村浩氏ー



(4) 清和台研修所

ー竹中工務店: 河野秀二郎氏ー

せん断力一部材角関係



5. フリーディスカッション

設計事例に関するフリーディスカッションは、予定していた時間を20分超過するほど盛り上がりしました。建築家と構造設計者の関わり方をはじめ、設計・監理において工夫した事項、苦労した事項、改善できたであろう事項など多様な意見交換が活発に行うことができたのではないかと考えています。

6. 終わりに

今回のゼミナールの参加者は48名とほぼ予想通りでしたが、より一層のゼミナールの活性化に向けて、今回のゼミナールでは二つのことを試行しました。一つは、会員の設計事例に関するフリーディスカッションを開始する前に、忌憚の無い意見交換を意図して、ブレイクを設けて飲み物を配布したこと、もう一つは、ゼミナールを盛り上げる意見交換の場となるような御意見やアイデアを募ることを目的として、参加者にアンケートを実施したことです。飲み物の配布はフリーディスカッションの盛り上がりにつながったと思います。一方、アンケートに関しては回収率が芳しくありませんでした。今後の御協力をお願いする次第です。今回のゼミナールの内容が、構造体をそのまま意匠材として「魅せる鉄骨建築」を設計する際の技術情報に資すれば幸甚です。

●事務局だより

寒い日が続いています。インフルエンザの感染に注意しましょう。

1.支部幹事会

10月26日(月)

安田ビル2階会議室

2.四役会

10月20日(火)

安田ビル2階JSCA関西事務局

3.事業委員会

10月20日(火)17:30～18:30

安田ビル2階JSCA関西事務局

・現地見学会

3月5日(金)15:00～17:00(予定)

「関西医科大学付属香里新病院」

・若手育成講座

2月4日(金)(予定)

科学技術センター

4.技術委員会

10月15日(木)18:30～20:00

安田ビル2階JSCA関西事務局 9名

1.第12回 構造設計ゼミナール
(金属系分科会)概要報告

2.構造法制分科会

構造設計ゼミナール案について

3.構造計画分科会の活動について

4.建築学会近畿支部耐震構造研究部会
シンポジウムについて

12月2日(水)18:30～20:30(予定)

安田ビル2階JSCA関西事務局

・構造設計ゼミナール

9月25日(金)18:00～20:00 48名

大阪科学技術センター B1-101号室

「魅せる鉄骨建築」～設計知識と設計事例
設計知識:鋳物接合部、システムトラス
設計事例:大阪城レストハウス、

白い教会、ろうきん肥後橋
ビル、清和台研修所 匠

12月11日(金)18:00～20:00(予定)

大阪科学技術センター B1-101号室

「今さら聞けない地震・地盤・杭」
地盤系分科会

2月19日(金)18:00～20:00(予定)

大阪科学技術センター B1-101号室

法制分科会

5.広報委員会

10月14日(水)18:00～19:00

大林組会議室 13名

1.Structure Kansai NO.104号 編集会議

2.Structure Kansai NO.105号 企画会議

3.支部HPの改善について

1月13日(水)18:00～(予定)

大林組会議室

1.Structure Kansai NO.105号 編集会議

2.Structure Kansai NO.106号 企画会議

3.支部HPの改善について

6.木造住宅レビュー委員会

10月1日(木)17:00～20:00

SERB会議室 10名

木造建物の限界耐力計算に関するマニ
ュアル改定版の配布先手配(全120部)

および大阪府(建築士会)木造耐震講習
会・JSCA関西木造耐震講習会の方針

10月30日(金)18:00～20:00

SERB会議室 4名

住木センター・伝統構法設計法作成検
討委員会および関連TTへの取り組み
方針調整打ち合わせ

11月18日(水)10:00～12:00

SERB会議室 5名

住木センター・伝統構法設計法作成検
討委員会および関連TTへの取り組み
方針調整打ち合わせ

7.耐震診断・補強判定委員会関西西部会

11月16日(月)18:30～20:00

安田ビル2階JSCA関西事務局 10名

某中学校体育館の耐震診断

8.大阪府域内陸直下型地震に対する建
築設計用地震動および設計法に関する
研究会

11月2日(月)16:00～17:30

中之島公会堂会議室

設立総会

1月5日(火)15:00～17:00(予定)

専門委員会

9.支部報

Structure Kansai No.103発行

10.技術委員会各分科会

・地盤系分科会

10月7日(水)18:00～20:00

大林組 17名

構造設計ゼミナールについてテーマ選定

10月20日(火)18:00～20:00

竹中工務店

地盤WG

10月20日(火)18:00～20:00

大林組

地震WG

10月23日(火)18:00～20:00

安井建築設計事務所

基礎WG

11月5日(木)18:00～20:00

竹中工務店 17名

構造設計ゼミナール 資料確認会

11月20日(金)18:00～20:00

安田ビル2F

地盤WG

12月3日(木)18:00～20:00(予定)

竹中工務店

構造設計ゼミナール 資料確認会

12月11日(金)18:00～20:00(予定)

科学技術センター

構造設計ゼミナール

・RC分科会

11月20日(金)18:00～

竹中工務店 会議室

最新トピックス紹介

・金属系分科会

11月13日(金)18:00～20:00

安田ビル2階 会議室 11名

「熱間成形角形鋼管を用いたノンダイ
アフラム構法」勉強会

・構造計画分科会

11月13日(金)18:00～20:30

安田ビル2階JSCA関西会議室 5名

「熱間成形角形鋼管を用いたノンダイ
アフラム構法」勉強会

構造設計ゼミナールについての議論

12月14日(月)18:00～20:00(予定)

竹中工務店 会議室

事例紹介(2例)

構造設計ゼミナールについて

・耐震設計分科会

10月9日(金)15:00～17:30 10名

竹中工務店 香里地区再開発作業所

免震震構造事例紹介12

11月17日(金)17:30～19:00

竹中工務店7階Pルーム 14名

耐震改修・免震設計事例勉強会(5)

12月15日(火)15:00～17:30(予定)

鹿島建設 CHASKA茶屋町作業所
制震構造事例紹介13

・PC・工業化分科会

10月9日(金)18:00～20:00

竹中工務店会議室 8名

建築学会大会PD資料説明

「病院建築へのプレストレスを応用し
たハイブリッド構造の適用」

1月15日(金)18:00～20:00(予定)

竹中工務店会議室

1.「2009年版PC造技術基準解説書」
講習会報告

2.構造設計ゼミナール打合せ

・木構造分科会

10月7日(水)18:30～20:00

安田ビル2階会議室 27名

1.木造住宅・建築物の耐震性能

評価・耐震補強マニュアル

2.構造設計ゼミナールについて

3.木造住宅の増改築における確認
申請の手引き

4.その他

12月2日(水)18:30～(予定)

安田ビル2階会議室

・法制分科会

10月8日(木)16:00～18:00

安井建築設計事務所 大阪事務所 5名

構造設計と建築法規制との現状整理と
将来展望

11月11日(水)16:00～18:00

安井建築設計事務所 大阪事務所 5名

政権交代と建築基準法のゆくえ

1月6日(水)16:00～18:00(予定)

安井建築設計事務所 大阪事務所 9名

(続)政権交代と建築基準法のゆくえ

11.サテライト活動

・京滋会

11月20日(金)15:00～17:00

学芸出版社 3階ホール

京都工芸繊維大学森迫清貴教授講演会

「鉄骨骨組の静的・動的挙動予測」+α

12.関連団体との交流

11月4日(水)11:30～13:00

大阪ガスビル

建築関連14団体午餐会

1月4日(月)15:00～16:00(予定)

リーガロイヤルホテル

建築関連14団体交礼会

●編集後記

本号では関西で2009年に竣工した注
目建物紹介や歴史的建造物の見学など
新旧織り交ぜて紹介させていただきま
した。今年も昨年以上にJSCA関西を盛
り上げていきましょう。

お忙しい中、原稿執筆にご協力いた
だきました皆様に厚くお礼申し上げます。

(編集担当:金田・山浦)

発行 (社)日本建築構造技術者協会
関西支部事務局

〒550-0003

大阪市西区京町堀1-8-31(安田ビル3F)

Tel 06-6446-6223 Fax 06-6446-6224

Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp

URL <http://www.mmjp.or.jp/jsca-kansai/>